

大鹿卓は、いつもゆつたりとしていた。
 このゆつたりとしていた意識が
 れた。ホオズミは、生得のお人柄と思わ
 れた。いかに詩人時代という雑誌があつて
 誰かがそれに詩壇の偉大なる島としてみ
 憶ふ。大鹿卓、角田丈夫の島と三つあ
 った。しかし大鹿氏の島票といふは、く
 決してすがるという程ではない。如も得

5分

追悼

儀府

成